

第1回景観ワークショップ ポイントメモ

日 時：平成19年7月21日(土) 10:00～

場 所：高槻現代劇場 市民ホール3階

班分けについて

- ・ フリータイム後の班分けにより、町家や街道をテーマとしたいメンバーが集まり(11名) 順次自己紹介と参加の動機などについて説明。
- ・ ワークショップの進行上、班を二つに分けなければならないことから、 街家と道路で分ける(点と線で) 南北で分ける(芥川地区と高槻地区で) 東西で分ける(高槻と富田で) などの意見が出る。
- ・ しかしメンバーのやりたいことやポイントがかなり近いことから、テーマや地区で分けることは難しく、最終的に年齢と性別のバランスをとりつつ、シンプルにじゃんけんで決定。
- ・ 班は二つに分かれても、今後のフィールドワークや集まりの際には、一緒に行動ができるよう、情報を共有しながら進めることを確認。

(パーの班)

小田 寿子さん(道鶴町) 大池 美枝さん(真上町)
杉山 英俊さん(茨木市) 林 敏夫さん (南平台)
高麗 敏行さん(黄金の里)
平田 太(島本町・商工観光室) 小笠原 しのぶ(明野町・都市政策室)

(グーの班)

岩崎 卓宏さん (宮田町) 金子 裕子さん(八丁畷町)
丹羽 智嘉良さん(竹の内町) 橋長 由妃さん(前島)
長谷中 香久子さん(川西町) 平田 貴昭さん(浦堂本町)
藤井 敏温(?・都市政策室) 堀切 香央里(茨木市・子ども育成室)

チーム名の決定

『(仮) ちよっとまち～や(町～屋)』

市街化の圧力にさらされ、次第に失われていく古き良き町家を「ちよっとまち～や」と立ち止まり振り返ってみる・・・古いものと新しいものがバランスをとり、共存・共生しながら町並みを創っていく方法を探っていこうとの思いから、名付けられました。

議論されたポイント

- ・街並みの連続性

一箇所の店舗などが、おしゃれになると、その隣もそれにあわせて改装していく。とある芽生えから街が成長し、まちの雰囲気を作られていく場合がある。人が歩きたくなる街並みにすることが大切。(歩きたくなる街並みとは?)

- ・バランス

住む人、地域の人、古いもの、新しいものとのバランスが成り立つことが大切。共存共営(栄) 共生をどううまくとっていきかがポイントになりそう。

- ・古い建物、まちなみの保存手法

町屋の手入れと活用、町屋を保存するためには、手入れをする必要がある。町屋は住みにくい、手入れに体力と費用がかかる 保存できるような活用方法が必要

- ・住人と周辺の人とのギャップ

町屋を残したいと思う人と、住みにくく維持が大変という、実際の住人との考え方のギャップ。現在でも残っている町屋は、なぜ残っているのか。(住人は何故残そうとしているのか)

- ・長期的な維持の視点

この先20年、30年と残していく為には、どうしていったら良いか。

- ・様々な保存方法のあり方

古いものを残している地域は、村おこしの一環や観光資源として活用することによって保存している地域が多い。

商業化させることなく保存されている地域(奈良の今井町など)は、何故、保存がされているのか? 古い町並みを守っていくには、いくつかの方法が考えられるのでは?